

令和六年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問四** までであり、1 ページから13 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次のa～dの各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|----|------|---|------|---|------|---|-------|
| a | 事件を <u>穩便</u> に解決する。 | (1 | かんべん | 2 | おんびん | 3 | いんびん | 4 | まんべん) |
| b | 興奮して <u>血管</u> が浮き出る。 | (1 | あつかん | 2 | とつかん | 3 | へんかん | 4 | けつかん) |
| c | 旧街道が <u>荒廢</u> する。 | (1 | こうはい | 2 | とうかい | 3 | かいはつ | 4 | こくはつ) |
| d | 柳の枝が <u>垂</u> れる。 | (1 | お | 2 | と | 3 | た | 4 | か) |

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------------------------|---|------------------------|---|------------------------|
| a | 試合では体重別に <u>カイキユウ</u> を設ける。 | 1 | 学校で初めての <u>カイキョ</u> だ。 | 2 | 新作を <u>カイガ展</u> に出品する。 |
| b | 捜査の範囲が <u>コウイキ</u> に及ぶ。 | 3 | 構内を <u>ジュンカイ</u> する。 | 4 | 屋上に続く <u>カイダン</u> を登る。 |
| 1 | 大学で <u>コウシ</u> を務める。 | 2 | 雑誌に <u>コウコク</u> を出す。 | | |
| 3 | 両親への <u>コウコウ</u> を忘れない。 | 4 | 失敗は <u>セイコウ</u> の母である。 | | |

c セイミツな作業が必要だ。

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-----------------------|
| 1 | 運動会は <u>セイテン</u> に恵まれた。 | 2 | 美術品を <u>フクセイ</u> する。 |
| 3 | 運賃を <u>セイサン</u> する。 | 4 | 主君に <u>チュウセイ</u> を誓う。 |

d 釣り針を川にナゲ入れる。

- | | | | |
|---|--------------------------|---|-------------------------|
| 1 | 新聞に <u>トウシヨ</u> する。 | 2 | お土産として <u>ボクトウ</u> を買う。 |
| 3 | 環境問題について <u>トウロン</u> する。 | 4 | 渡り鳥が湖で <u>エツトウ</u> する。 |

(ウ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 先生が先ほどいらっしやいました。
- 2 今後の予定を皆様にお知らせします。
- 3 次の会議には新しい担当者が参ります。
- 4 こちらの資料を拝見してください。

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

隣の席の男の子は、教室では音楽のことをあまり話さないが、合唱祭のときに伴奏者としてピアノを弾き、見事な演奏を披露した。まさに□だと思った。

- | | | | |
|---|-------------------|---|--------------------|
| 1 | 捕らぬ <u>狸</u> の皮算用 | 2 | 能ある <u>鷹</u> は爪を隠す |
| 3 | 月とすつぽん | 4 | 袋のねずみ |

(オ) 次の例文中の——線をつけた「と」と同じ意味で用いられている「と」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 春休み中の教室は静かだと感じた。

- 1 新しいスポーツに挑戦したいと思った。
- 2 予報では夜になると雪が降るそうです。
- 3 父の跡を継ぎ兄が社長となった。
- 4 コーヒーとお茶のどちらがいいですか。

(カ) 次の短歌を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

おおつ
大辻
なかひろ
隆弘

- 1 船の押し出した波で海面がゆらめく様子を「港湾のゆらめき」と表現した上で、港湾を眺めるうちに波がやんで静まり、海鳥が餌を求めて海へ飛び込む夕方になって驚く人物の姿を描いている。
- 2 海をぼうっと見ているうちに夜になり、真っ暗な中で餌をとる海鳥の飛び込む音を聞いて我にかえった様子を「たたずむひとり」と表現することで、港湾で一日を過ごした人物の姿を描いている。
- 3 海鳥が餌を求めて海に飛び込む夕方になるまで港湾にいて、波の輝きを飽きもせず眺め続けている様子を「鳥落つるまで」と表現し、一人で夕方まで港にとどまっていた人物の姿を描いている。
- 4 太陽の光が波間に反射し続ける様子を「やまぬかがやき」と表現すると同時に、港に押し寄せる波や急降下して餌をとる海鳥について、時間を気にせずに語り合う二人の人物の姿を描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

浅草の老舗菓子店「奥山堂」おくやまどうに職人として入社した「ワコ」は、菓子づくりの現場を取り仕切る「鶴ヶ島」つるがしま（ツルさん）や先輩の「浅野」あきのに努力を認められ、饅頭づくりを許されるようになった。ある朝、同期入社した職人の「小原」こはらに「おまえの担当分は饅頭三百個、じょうよ饅頭三百個だって。」と言われる。「ワコ」は張り切ってじょうよ饅頭をつくり、蒸し場に持っていくた。

（著作権上の都合により省略）

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(上野^{うえの} 歩^{あゆむ}「お菓子の船」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 浜畑^{はまはた}[〓]「奥山堂」の職人。
腰掛^{こし}け[〓]ここでは、長く働く気がないということ。

(ア) 線1 「悔しさと虚しさを感じる。」とあるが、そのときの「ワコ」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「小原」が饅頭の個数を伝え間違えたことで、余分に饅頭をつくって「鶴ヶ島」から一方的に怒鳴られてしまい、失敗した事情を説明させてもらえない現状にいら立っている。

2 「小原」から伝えられた通りに作業した結果、饅頭を多くつくり過ぎて「鶴ヶ島」に大声で怒られてしまい、だまされたことを含めて自身の未熟な現状をもどかしく感じている。

3 「小原」が指示を正しく伝えなかったために、必要以上に饅頭をつくって「鶴ヶ島」に呼び出されて怒られてしまい、「小原」に腹を立てつつも自身のふがいなさにあきれている。

4 「小原」から聞いた通りの個数を蒸し上げたところ、担当分以上の饅頭ができて「鶴ヶ島」に怒られてしまい、「小原」を腹立たしく思いつつも自身の仕事の甘さを恥じている。

(イ) 線2 「すぐに目を伏せてしまう。」とあるが、そのときの「ワコ」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 怒られたことに不満をもって反発しようと思ったものの、「鶴ヶ島」のほうを見る勇気がなかったので、顔を上げることなく下を向いたまま視線を合わせないようにしている。

2 「鶴ヶ島」に失敗した理由を説明したかったが、一人前の職人になるためには指摘されたことを受け入れたほうが良いと思い直し、横を向いて言いたいことを我慢している。

3 確認作業を怠ったために失敗したということに気づいたが、「鶴ヶ島」から自分だけが集中的に怒られていることに不平等さを感じ、話に納得できないので顔をそむけている。

4 「鶴ヶ島」から仕事への姿勢を疑われて言い返したい気持ちがあったが、仕事を失敗したことについては自身の不注意による点もあるため、なにも言えずうつむいている。

(ウ) 線3 『一緒に黒糖饅頭を百五十つくる。』とだけ言った。」とあるが、そのときの「浅野」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「ワコ」のせいで「鶴ヶ島」から怒られたにもかかわらず、「ワコ」を責めずに仕事を手伝うということ伝えて、失敗に関する話を切り上げて「ワコ」に作業を始めるように促している。

2 「ワコ」が黒糖饅頭をつくり忘れたまきぞえで「鶴ヶ島」にとがめられたが、「ワコ」のせいにしようとせず責任を引き受けて謝った上に、仕事についても代わりに一人で進めようとしている。

3 「ワコ」が失敗したことで「鶴ヶ島」から怒られた上に、「ワコ」に対して謝罪させられ気持ちがいら立ったため、会話を最低限にすませて作業に集中することで気分を切りかえようとしている。

4 「ワコ」の饅頭づくりを手伝わなかったことについて「鶴ヶ島」から怒られた上に、残った「ワコ」の仕事を手伝うように言われたため、「ワコ」に対する怒りを隠して作業を手伝おうとしている。

(エ) 線4 「彼は手を止めて、じっと下を向いていた。」とあるが、そのときの「小原」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「ワコ」にうそをついて困らせることができたが、「ワコ」は失敗したことにめげず饅頭を外で売り切るまで帰ってこないと言いつ出したため、予想外のことに驚いて作業が止まってしまっている。

2 「ワコ」の失敗の原因を偶然つくってしまったことについて責任を感じ反省していたが、「ワコ」が店の外に行つて饅頭を売り歩くことに決まったため、作業をやめて謝罪に行こうとしている。

3 饅頭の個数を偽って伝えることで「ワコ」をだまして困らせることができたが、「ワコ」と一緒に余分な饅頭を売り歩くことになったため、作業を続ける気にならず自身の行いを反省している。

4 自身のねらい通りに「ワコ」に失敗させることができて喜んだが、「ワコ」が店の外で饅頭の販売をさせられる事態にまで発展したため、騒ぎの様子に気がなり作業を続けられなくなっている。

- (オ) —線5「抑えきれずに明るい声が出てしまう。」とあるが、そのときの「ワコ」を説明した次の文章中の I・II に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

「鶴ヶ島」から百五十個のじょうよ饅頭を全部売るまで帰ってこないように言われ、店の外へ出るときには気持ちが悪く落ち込んでいたが、先ほどの「鶴ヶ島」の発言を思い出して I という気持ちになった。外にはたくさんの方が歩いていたので売れるかもしれないと期待したが、声を張り上げてもなかなか売れなかった。そこに、一人の女性が II 様子で話しかけてきて饅頭がひとつ売れたので心が弾んでいる。

- 1 I 「小原」のことを見返してやろう II おなかをすかせた
- 2 I 「浅野」に手伝ってもらおう II じょうよ饅頭に魅力を感じている
- 3 I 饅頭をすべて売ってみせる II じょうよ饅頭に興味をもった
- 4 I 饅頭づくりで一人前になりたい II 勇気をふりしぼった

- (カ) —線6「ほんとですか？」とあるが、ここでの「ワコ」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 女性が饅頭を食べてすぐにおいしいと言ってくれたことによって、饅頭を以前にも褒められたことを思い出し、仕事のおもしろさを再認識したような口調で間をとって読む。
- 2 女性が饅頭を購入して目の前でおいしいと褒めてくれたことに対して、菓子職人としての初めての経験に驚きと喜びを感じ、嬉しさが湧き上がってきたような口調で明るく読む。
- 3 女性が饅頭を食べて褒めてくれたことによって、同僚全員と協力して饅頭をつくるからこそ客に喜んでもらえるということに気づき、同僚に対して感謝するような口調で読む。
- 4 女性が饅頭を食べて喜んでいることに対して、饅頭を一人で仕上げることができた上に褒めてもらえたということが自分では信じられず、女性に確かめるような口調で読む。

- (キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 1 真剣に職人の仕事に取り組む「ワコ」が「鶴ヶ島」の指導によって店内で販売の仕事を体験したこととで、菓子づくりのおもしろさや難しさについて考えるさまを、心情描写を軸として描いている。
 - 2 新人職人として働く「ワコ」が菓子づくりに初めて取り組んで、作業の複雑さに戸惑いながらも同僚と助け合うことで困難を乗り越えて成長していくさまを、生き生きとした人物描写で描いている。
 - 3 新人職人の「ワコ」が仕事上の失敗のために「鶴ヶ島」の指示で饅頭を売らされたものの、客の反応を直接見る機会を得たことで改めて仕事のやりがいを感じるさまを、会話を中心に描いている。
 - 4 職場の人間関係に悩む「ワコ」が仕事で失敗して販売の業務をさせられたことをきっかけにして、本心を語り合えるようになり同僚らと打ち解けていくさまを、主人公の心情を中心に描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(信原 のふはら 幸弘 ゆきひろ 『覚える』と『わかる』から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 味蕾は舌の表面にある、味を感じ取る器官。

俯瞰的にはここでは、全体的に見渡すこと。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---------|--------|----------|---------|
| 1 A つまり | B ところで | 2 A ところが | B あたかも |
| 3 A ただし | B しかし | 4 A たとえば | B したがって |

(イ) —線1「クオリア」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ある物事を自分で体験することによって知ることのできる、物事に備わる特有の感じのこと。
- 2 じつさいに体験して習得しなくても体のなかにはじめから存在する、物事を感じ取る器官のこと。
- 3 本を読んだり話を聞いたりすることで体に備わっていく、物事を理解する助けとなる能力のこと。
- 4 じつさいに体験しただけでははっきりと感じ取ることのできない、物事がもっている質のこと。

(ウ) —線2「体験して覚えることはきわめて重要である。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 擬似的な体験は言葉に比べれば物事を理解する助けとなるが、手間暇がかかってもクオリアを知ることにはつながらないので、どんなことでもじつさいに体験することが大切だということ。
- 2 言葉によって物事を知る際にもクオリアを把握できる場合があるが、体験は労力と時間が必要なクオリアを把握できる可能性が高いので、物事の理解のためには体験が効果的だということ。
- 3 擬似的な体験は、把握できるクオリアに限度があるが、悪い結果をもたらすことでもクオリアを把握できるので、実体験をしないで常に擬似体験で物事を理解することが必要だということ。
- 4 体験は、言葉を用いて物事を知るのに比べて労力と時間がかかるが、たとえ擬似的なものであっても何らかのクオリアを把握できるので、物事を理解するためには欠かせないということ。

(エ) —線3「知覚や情動と行動の絶えざる循環からなる体験の世界は、とりわけ『一人称の世界』である。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 一人称の世界とは、ある物事の存在を「私」という立ち位置を離れて感知し、世界に直接働きかけるといふ流れを繰り返すことによつて、「私」のなかに浮かび上がってくる世界であるということ。
- 2 一人称の世界とは、ある物事の存在を「私」という立ち位置から何度も感知した上で、直接働きかけなくても別の物事を感じできるようになることで、「私」のなかに生じる世界であるということ。
- 3 一人称の世界とは、ある物事の存在を「私」という立ち位置から感じ取り、感じ取ったことをもとにして自身の立ち位置を変え続けることによつて、「私」のなかに生まれる世界であるということ。
- 4 一人称の世界とは、ある物事の存在を「私」という立ち位置から感じ取った上で、感じ取ったものについて働きかけるといふ流れを繰り返すことで、「私」のなかに現れる世界であるということ。

(オ) 線4 「三人称の世界」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 一人称の世界が現れ、「私」という存在を世界とは別々に考えられるようになった後に身体で働きかけることで見える、「私」とつながっている世界のこと。
- 2 一人称の世界を獲得し、世界から「私」という存在を切り離した上で超越的な視点で眺めることで現れる、「私」には働きかけることのできない世界のこと。
- 3 「私」という存在を自身の立ち位置から切り離さずに考え、身体で働きかけることに比重を置くことで見えてくる、「私」のなかに作り出される世界のこと。
- 4 「私」という存在を自身の立ち位置から切り離して考え、眺めることに特化して超越的な視点をもつことで現れる、「私」の影響下に置かれた世界のこと。

(カ) 線5 「三人称の客観的世界を手に入れても、世界に働きかけるためには、やはり一人称の主観的な世界が必要だ。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 三人称の世界は、想像したことを実現できる場所ではあるが、そもそも一人称の世界で行動を重ねて想像力を養うべきだということ。
- 2 三人称の世界は、客観的に考えられる場所ではあるが、そもそも一人称の世界でも客観的に物事を理解することができるということ。
- 3 三人称の世界は、想像をもとにできあがっているが、そもそも一人称の世界をもたなければ想像できないということ。
- 4 三人称の世界は、想像することで作られるが、そもそも一人称の世界で自身を深く理解しないと想像することはできないということ。

(キ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 クオリアを知るための方法を示した上で、一人称の世界と三人称の世界の関係性を説明し、クオリアを知ることよりも想像力を身につけることを重視すべきだと述べている。
- 2 クオリアとはどのようなものか具体例を挙げて説明した上で、一人称の世界と三人称の世界とのつながりを明らかにし、体験してクオリアを知ることが重要だと述べている。
- 3 クオリアについて定義した上で、三人称の客観的世界を獲得することでクオリアを把握できるようになるということを説明し、身体的に働きかけることが必要だと述べている。
- 4 クオリアについての考えを示した上で、クオリアを知っても世界に働きかけることにはならないということを明らかにし、主観的世界と客観的世界の重要性について述べている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

禪師、尊像を造らむがために、京に上りて財を売り、すでに金・丹(金色や赤色の塗料)らの物を買ひ得たり。帰りて難波(注)の

津(港)に到る。時に海辺の人、大きなる亀を四口(匹)売る。禪師、人に勧めて買ひて放たしむ。

すなはち人の舟を借り、乗りて海を渡る。日暮れ夜ふけぬ。舟人欲を起こし、備前の骨嶋(注)のあたりに

行き到り、禪師に告げていはく、「すみやかに海に入るべし。」と言ふ。師、教化すといへども、賊なほし

許さず。ここに願を発して海の中に入る。

水、腰に及ぶ時に、石の脚に当たれるをもちて、その暁にこれを見れば、亀の負へるなりけり。その

備中の海の浦の海辺にして、その亀、三つ領(注)て去りぬ。疑はくは、これ放ちし亀の恩を報ゆるならむかと。

時に、賊ども六人、その寺に金・丹を売る。檀越(注)先に過りて価を量り、禪師後より出でて見る。賊ども

にはかに退進を知らず。禪師、あはれびて刑罰を加へず。仏を造り、塔を飾りて、供養することすでに

をはりぬ。後には海辺に住み、通へる人を化せり。

畜生(動物)すらなほし恩を忘れずして返りて恩を報ゆ。いかにいはむや、義人にして恩を忘れむや。

〔日本霊異記〕から。

(注) 禪師 ここでは、徳の高い僧侶のこと。

難波 現在の大阪府大阪市付近。

備前の骨嶋 現在の岡山県の南東部にあったとされる地名。

備中 現在の岡山県西部。

その寺 禪師が住職を務めていた寺。

檀越 寺を支援する信者。

(ア) 線ア～エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 線1 「人に勧めて買ひて放たしむ。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「禅師」は「海辺の人」の持っている亀を見かけ、その亀を飼ってもらおうと思い、「人」に亀を買い取って家に持ち帰るよう頼んだということ。

2 「禅師」は「海辺の人」の売っている亀を見かけ、その亀を逃がしてやろうと思い、「人」に買い取るよう促して亀を海に逃がしてやったということ。

3 「禅師」は「海辺の人」の売っている亀を見かけ、その亀を寺に連れて帰ろうと思い、「人」にお願いして亀を買い取って寺に運ばせたということ。

4 「禅師」は「海辺の人」の持っている亀を見かけ、その亀を助けてやろうと思い、「人」に頼んで亀と塗料を交換して逃がしてやったということ。

(ウ) 線2 「師、教化すといへども、賊なほし許さず。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「賊」が欲を出して「師」から持ち物を奪おうとしたことに対して、「師」は罪を犯さないように話して聞かせたが、「賊」は考えを改めなかったということ。

2 「賊」が金もうけのために「師」に亀を捕まえるよう命じたことに対して、「師」は生き物を捕まえないと述べたが、「賊」は聞き入れなかったということ。

3 「賊」が航路を知らず「師」に案内してほしいと求めたことに対して、「師」は海に不慣れでわからないと伝えたが、「賊」は信用せずに問い詰めたということ。

4 「賊」が亀を欲しがって「師」から奪い取ろうとしたことに対して、「師」は考えを改めるよう伝えしたが、「賊」は聞き入れず無理やり取り上げたということ。

(エ) 線3 「賊どもにはかに退進を知らず。」とあるが、その理由を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「賊ども」が「禅師」と売り物の値段を交渉していると、寺にいないはずの「檀越」が現れたことで支払いがとめられて金が手に入らなくなったから。

2 「賊ども」が「檀越」と売り物の値段を交渉していると、寺を出たはずの「禅師」が現れたことで交渉を最初からやり直すことになって困り果てたから。

3 「賊ども」が「檀越」と売り物の値段を交渉していると、生きているはずの「禅師」が現れたことによって悪事が発覚して逃げられなくなったから。

4 「賊ども」が「禅師」と売り物の値段を交渉していると、海に落ちたはずの「檀越」が現れたことで高く売りつけようとしていたことが明るみに出たから。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「禅師」は仏像の塗料を買った帰りに亀の命を救ったことで、苦難に遭遇した際に亀に救われて海辺まで送られて寺に帰り着き、その後は仏像を完成させて寺に通ってくる人を教え導いた。

2 「禅師」は亀を救おうとせずに塗料を得ることを優先したことで罰を受けて海に落ちたが、海で「人」に助けられたことで寺に帰ることができ、その後は改心して多くの人や動物の命を助けた。

3 「禅師」は仏像の塗料を買いに京へ行く途中で「賊」に襲われ海に落ちたが、海中で偶然亀に助けられて命が助かり寺に帰ることができたので、その後は亀に恩を返すために海辺で暮らした。

4 「禅師」は京で仏像の塗料を買った帰りに亀の命を救ったことで、海に落ちたが亀に命を救われて住んでいた寺まで連れてきてもらったので、その後は海辺に移り住んで亀とともに暮らした。

(問題は、これで終わりです。)

